

第2章 未来を切り拓く多様な人材を育む教育の実現

1 グローバル人材の育成

＜目標＞

郷土を愛するとともに、多様性を理解し、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身に付けた国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を促進する。静岡県の魅力を的確に伝えることができるプレゼンテーション能力、外国の文化や歴史等を理解し受け入れることができる姿勢等を育むとともに、外国語教育や外国人児童生徒等への教育の充実を図る。

〔(1) 海外留学等の相互交流の促進〕

＜目標指標の進捗状況＞

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|---------------------------|--------------------|---|-------------------------|-------------------------|--------|
| ふじのくにグローバル人材育成基金による海外派遣者数 | (2016年度) 97人 | (2016～2019年度) 累計703人 | (2016～2020年度) 累計785人 | (2016～2020年度) 累計900人 | B ★ |
| | 指標の評価 | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、安全を第一に考慮し、生徒及び教職員を海外に派遣する事業を中止し、国内で実施可能な取組に限定して実施したため、5年計画の最終年度であったが、目標に到達しなかった。 | | | |
| | 今後の方針 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航が困難な状況下においても、これまでの高校生の海外体験への機運の高まりが消沈することがないように、新たな計画を立案する。 具体的には、次期計画の検討に向けて実施した2016年度の参加者アンケート調査結果をもとに、効果的・効率的な派遣メニューに見直し、最大限の派遣の実現を図る。 | | | |
| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
| 外国人留学生数 | (2017年度) 2,821人 | (2018年度) 3,355人 | (2019年度) 3,598人 | 5,000人 | B |
| | 指標の評価 | ふじのくに地域・大学コンソーシアムを主体とした海外での情報発信を強化するとともに、日本語学校への訪問を増やした結果、順調に進捗している。 | | | |
| | 今後の方針 | オンラインセミナー等を通じて国内外の日本語学校の学生に対して県内高等教育機関や本県の認知度向上を図り、外国人留学生の受入増加を目指していく。 | | | |

| | |
|------------|---|
| 施策ア | 留学生の支援と「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用した人材育成 |
|------------|---|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 5 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大学への留学生の受入促進★ ・ 留学生と日本人学生が共に学び交流する場の設置の検討 ・ 本県に就職を希望する留学生を支援する仕組みの充実 ・ 日本人学生の海外への留学促進 ・ 高校生・大学生等に向けた海外留学応援フェアの開催★ |
| ● | 1 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用した人材育成★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「県内大学への留学生の受入促進」★

ふじのくに地域・大学コンソーシアムが主体となって実施する海外での留学フェアの開催は、新型コロナウイルス感染症の収束状況が不透明なことから実施は未定である。国内外の日本語学校向けの静岡県大学進学フェアをオンライン開催し、県内外 22 都府県、海外 8 か国・地域から 242 名が参加した。【大学課】

○「高校生・大学生等に向けた海外留学応援フェアの開催」★

対面形式を取りやめ、オンライン開催に変更し、オンラインの運営を民間へ委託することで、スムーズな運営ができた。大学課と連携し、開催形態や実施回数、ホームページを活用した情報発信等の視点から見直しを図り、海外留学を希望する生徒のニーズにあった事業計画を検討する。【教育政策課】

●「「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用した人材育成」★

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、安全を第一に考慮し、生徒及び教職員を海外に派遣する事業を中止した。グローバルハイスクール事業においては、各指定校がオンラインによる国際会議の開催や国内交流人材活用等、国内でも可能な国際交流を実施した。

事業開始から5年が経過し、2016年度の参加者にアンケート調査を実施した。アンケート調査から得られた情報等を参考に、事業効果が高い海外派遣プログラムの拡充等の見直しを実施し、グローバル人材の育成に向けて、より一層の海外派遣研修の促進に努める。【教育政策課】

| | |
|------------|---|
| 施策イ | 多文化共生に向けた教職員・青年・学生等の海外研修や相互交流の推進 |
|------------|---|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 2 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・ モンゴル国（ドルノゴビ県を含む）との高校生相互交流★ ・ 外国人住民と日本人住民の多文化共生社会の構築に向けた意識啓発 |
| ● | 7 (7) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山静岡空港を利用した海外教育旅行の促進★ ・ 中国浙江省との短期留学生交流★ ・ 中国浙江省への中国語研修生（民間対象）の派遣★ ・ 日中青年リーダーの交流推進★ ・ 訪日教育旅行等を通じた台湾との交流★ ・ 教員の青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへの参加奨励★ ・ JICAボランティア、日本語パートナーズへの参加促進★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「外国人住民と日本人住民の多文化共生社会の構築に向けた意識啓発」

2020年度は、世界の文化と暮らし出前教室を10回開催(2021年1月31日現在)し、併せてSNS等での情報発信等を通じて多文化共生意識の啓発を図った。【多文化共生課】

●「富士山静岡空港を利用した海外教育旅行の促進」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度は富士山静岡空港を利用した海外教育旅行は行われていない。

新型コロナウイルス感染症が収束し、県教育委員会から県立学校宛てに発出されている海外教育旅行中止の通知が緩和された後、再び富士山静岡空港を利用した海外教育旅行が行われるよう、引き続き各学校に対して利用促進を行っていく。【空港振興課】

●「中国浙江省との短期留学生交流」★

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日本及び中国政府が出入国制限を継続しているため、浙江省教育厅と協議の上、2020年度の相互交流を中止した。

両国の出入国制限が緩和され、学生の受入れ・派遣において学生の安全が担保できる体制が整った時点で、受入調整を行っていく。【大学課】

●「中国浙江省への中国語研修生(民間対象)の派遣」★

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日本及び中国政府が出入国制限を設けたことにより、安全な事業実施が困難となったことから、受入組織となる浙江省政府と協議の上、2020年度の派遣を中止した。

今後は、新型コロナウイルス感染症の収束状況や国を越えた人々の往来の正常化を目指すための国際的な取組の動向を注視しつつ、浙江省政府とも協議しながら、2021年度以降の研修生派遣に向けて調整していく。【地域外交課】

●「日中青年リーダーの交流推進」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による浙江省交流及び静岡県交流の実施を見送ったが、交流の継続を目指し、浙江省とのオンライン会議を実施した。

また、新たにホームページを開設するなど、多様な交流を進めており、引き続き日中相互の理解を深め、次年度以降の事業の進展につなげる。【社会教育課】

●「訪日教育旅行等を通じた台湾との交流」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、海外から日本への入国が制限されたため、交流することができなかった。【高校教育課】

●「教員の青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへの参加奨励」★

2020年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、小中学校から派遣されている全教員に帰国が指示された。また、2020年度新規派遣は2021年度以降に見送られるとともに、2021年度新規派遣者の募集も中止している。また、高等学校教員では、2人の教員を2019年度からの継続派遣とし、1人の教員を新規派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣していた2人は派遣切上げ、新規派遣予定者は派遣延期となった。特別支援学校教員では、海外青年協力隊に派遣していた1人を2019年度からの継続派遣とする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を終了した。よって2020年度の「派遣者はなし」となった。

今後は、小中及び高等学校の教員の派遣について、派遣国の新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえ、派遣計画に関してJICAとの情報共有を行いながら検討する。また、特別支援学校の教員についても、2021年度の青年海外協力隊員の隊員募集が中止されているため、2022年度からの派遣に関して、JICAから募集連絡があったところで県としての方針を協議する。【義務教育課、高校教育課、特別支援教育課】

●「JICAボランティア、日本語パートナーズへの参加促進」★

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い日本及び各国政府が出入国制限を設けたことを受け、それぞれの事業主催団体が2020年度の派遣中止を決定した。

JICAについては、今後の派遣に向けて、同団体と連携しながら帰国報告会を実施するなど、啓発活動を実施している。また、国際交流基金の主催事業である日本語パートナーズについては、2021年度で終了予定となっていることから、継続実施に関する本県要望書を外務省へ提出した。

今後は、新型コロナウイルス感染症の収束状況を注視しながら、県民の積極的な参加に向けた広報を展開する。【地域外交課】

(2) 外国語教育・外国人児童生徒等への教育の充実

<目標指標の進捗状況>

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 | 進捗 |
|---------------------------------|----------|--|---|-------|-------|-------|
| | (2016年度) | (2018年度) | (2019年度) | | | 目標値以上 |
| | 小 68.9% | 小 72.5% | 小 | 90.1% | 小 75% | |
| | 中 67.2% | 中 75.0% | 中 | 89.5% | 中 75% | |
| | 高 88.9% | 高 75.8% | 高 | 95.7% | 高 90% | |
| | 特 90.0% | 特 90.5% | 特 | 100% | 特 95% | |
| 外国人児童生徒等に対して、必要な支援が実現できている学校の割合 | 指標の評価 | <p>小中学校においては、日本語指導を行う非常勤講師を配置したことにより、特別の教育課程を編成・実施している学校が大幅に増加した。</p> <p>高等学校では、国庫補助事業「補習等のための指導員等派遣事業」により、外国人生徒支援を計14校で実施するとともに、外国人生徒のキャリア支援と日本語学習講座を行う「外国人生徒みらいサポート事業」を実施したことで、実績値が向上したと考えられる。</p> <p>特別支援学校では、多様な人材活用学習支援事業及び外国人児童生徒トータルサポート事業を活用し、支援に当たった。</p> | | | | |
| | | 今後の方針 | <p>小中学校では、配置した非常勤講師を一層活用し、特別の教育課程の編成・実施に向けた指導体制の拡充を図る。</p> <p>高等学校では、「外国人生徒みらいサポート事業」等を実施することで、日本語能力に課題がある外国人生徒の支援充実を図る。</p> <p>特別支援学校では、先進的な取組をしている学校の取組状況を把握し、機会を捉えて紹介していく。</p> | | | |

| | |
|-----|----------------------------|
| 施策ア | コミュニケーション能力の育成に向けた外国語教育の充実 |
|-----|----------------------------|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 3 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育や国際理解教育の充実★ ・小学校における外国語教育推進リーダーに対する研修等の充実 ・外国語指導助手の活用（再掲） |

(進捗評価の根拠・内容)

○「外国語教育や国際理解教育の充実」★

小中学校では、文部科学省主催中央研修を修了した「英語教育推進リーダー」による授業参観等を研修に盛り込み、コミュニケーションを中心とした授業の充実を図った。またALTを対象とした研修を実施し、ALTを活用した授業の充実を図った。高等学校では、グローバルハイスクール、英語教育コアスクールを始め、各校の取組を支援した。新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が制限される中、グローバルハイスクールの指定校を中心にオンラインによるシンポジウムの開催、外国人学校と連携した研究等、国内で実施可能な交流を進めている。【義務教育課、高校教育課】

| | |
|-----|------------------------|
| 施策イ | 外国人児童生徒等の日本語学習及び就学への支援 |
|-----|------------------------|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|---|--|
| ◎ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒の学びや就学への支援 |
| ○ | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒相談員の派遣による市町指導担当者等への助言・援助 ・外国人児童生徒相談員・外国人児童生徒スーパーバイザー・日本語支援コーディネーターの任用 ・外国人児童生徒等担当教員等の研修会の充実 ・市町教育委員会担当指導主事等対象の連絡協議会の実施 ・初期日本語指導カリキュラムの活用 ・「子どものための日本語学習支援基金」事業による日本語学習者の支援 ・DLA（外国人児童生徒のための対話型アセスメント）に関する情報交換の推進 |

(進捗評価の根拠・内容)

◎「外国人児童生徒の学びや就学への支援」

日本語指導を行う非常勤講師の配置により、特別の教育課程の編成及び実施が大幅に増加している。また、外国人の子供の就学促進と学校へのスムーズな適応を図るため、多言語リーフレットを作成した。【義務教育課】

○「外国人児童生徒相談員・外国人児童生徒スーパーバイザー・日本語支援コーディネーターの任用」

小中学校では、外国人児童生徒相談員（15人）、外国人児童生徒スーパーバイザー（2人）、日本語支援コーディネーター（4人）を配置して、各市町や学校の個別の要望に対応している。高等学校では、授業でのティームティーチングによる活用の充実を図っている。

【義務教育課、高校教育課】

2 イノベーションを牽引する人材の育成

<目標>

高度な専門的知識等を基礎に自ら考え行動し、力強く生き抜く力を育むとともに、新たな知を創り出し、その知から新たな価値を生み出す創造性を備え、多様な価値観を理解し、既存の様々な枠を超えて活躍できるイノベーションを牽引する人材を育成する。

(1) 科学技術の発展を担う人材の育成

<目標指標の進捗状況>

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|-------------------|------------------|--|--------------------------|----------------------------|----|
| 科学の甲子園静岡県予選への出場者数 | (2017年度) 248人 | (2018~2019年度) 累計 612人 | (2018~2020年度) 累計 947人 | (2018~2021年度) 累計 1,400人 | B |
| | 指標の評価 | 科学の甲子園全国大会の予選となる「科学の甲子園静岡県予選への出場者数」は順調に出場者が増加している。 | | | |
| | 今後の方針 | 広報活動や問題内容の改善等を図り、更なる出場者数の増加を目指す。 | | | |

| | |
|-----|-------------------------|
| 施策ア | 初等中等教育段階における魅力ある理数教育の推進 |
|-----|-------------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ○ | 5 (3) | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校への理科専科指導教員の配置 ・理数教育の充実（再掲）★ ・スーパーサイエンスハイスクール等への支援の充実 ・科学の甲子園静岡県大会の開催★ ・教職員等の専門研修の充実★ |
| ● | 1 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・理数分野に関する各種コンクールへの中学生・高校生の出場への支援★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「科学の甲子園静岡県大会の開催」★

「科学の甲子園」県予選では、例年楽しめる大会とするためにウォーミングアップ問題や実技競技を実施していたが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、筆記競技のみで実施した。【高校教育課】

○「教職員等の専門研修の充実」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、年次別研修や悉皆研修の代替研修として、説明付きのスライド資料や説明動画を作成し、産業教育の充実に資する内容の研修を実施した。

【総合教育センター】

●「理数分野に関する各種コンクールへの中学生・高校生の出場への支援」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、サイエンススクールにおけるオリンピックチャレンジ事業を中止とした。【高校教育課】

| | |
|-----|----------------------------|
| 施策イ | 個々の能力・適性・意欲等に応じた多様な学習機会の提供 |
|-----|----------------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ○ | 4 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・特別教諭等の外部人材の活用の拡大 ・官民連携による「静岡どぼくらぶ」を通じた建設産業の社会的意義と魅力の発信 ・建設現場見学会、出前講座やインターンシップ受入れ等の多様な学習機会の提供★ ・教職員が建設産業について学び、体験する研修会の実施 |
| ● | 1 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・こころざし育成セミナーの実施（再掲）★ → P33 |

(進捗評価の根拠・内容)

○「官民連携による「静岡どぼくらぶ」を通じた建設産業の社会的意義と魅力の発信」★

民間企業と連携した出前講座の実施や、土木の魅力を発掘する「フォトコンテスト」の開催、入職促進動画の作成など、建設産業の重要性ややりがいについて情報発信した。

【建設業課】

○「建設現場見学会、出前講座やインターンシップ受入れ等の多様な学習機会の提供」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が臨時休業していたため開始が遅れていたが、計画していた回数は実施できる見込みである。【建設業課】

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 施策ウ | ものづくりに関する優れた知識や技術を持ち県内産業を支える人材の育成 |
|-----|-----------------------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 3 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムの開催支援（再掲） ・レーザーによるものづくり中核人材育成講座の開催支援（再掲）★ ・総合食品学講座の開催支援（再掲）★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「レーザーによるものづくり中核人材育成講座の開催支援」★

光産業創成大学院大学が「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」を開催し、レーザー加工の基礎から産業応用までを理解して主体的に製品戦略を構築できる人材を育成しており、県及び浜松市が開催経費の一部を助成している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、オンライン開催に変更し、料金体系、開催時期等を変更して実施した。【新産業集積課】

(2) 多様な個性を生かし、優れた才能を発揮する人材の育成

＜目標指標の進捗状況＞

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|----------------------|-----------------|--|---------------|-------------------------|--------|
| 高校生アカデミックチャレンジ参加高校生数 | (2018年度) 37人 | (2019年度) 40人 | (2020年度) — | (2019～2021年度) 累計120人 | — ★ |
| | 指標の評価 | 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び大学の休講等の状況から講座開設を見送った。 | | | |
| | 今後の方針 | 県内の大学・短大等と引き続き連携し、定員40名を充足できるように内容の充実を図るとともに、高校生への積極的な広報に取り組む。 | | | |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 施策ア | 高等学校・大学・企業等の連携による高度な学問・研究活動に触れる機会の充実 |
|-----|--------------------------------------|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ◎ | 1 | ・情報教育推進のための県立学校へのタブレットやプロジェクタ等のICT機器の整備(再掲) |
| ○ | 3 (2) | ・高等学校と大学との連携・接続の強化に向けた取組の促進★ ・静岡大学「グローバルサイエンスキャンパス」への高校生の参加促進★ ・産業教育施設・設備の整備充実 |
| ● | 1 (1) | ・高校生アカデミックチャレンジ等の高大連携による研究体験等の推進★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「静岡大学「グローバルサイエンスキャンパス」への高校生の参加促進」★

全ての県立高校に対して周知した。また、コンソーシアムにおいて、高校の現状を伝えるなど、運営に対して助言をした。【高校教育課】

●「高校生アカデミックチャレンジ等の高大連携による研究体験等の推進」★

新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生が大学に出向いて研究活動を行う高校生アカデミックチャレンジを中止した。【高校教育課】

| | |
|-----|-------------------------------|
| 施策イ | 優れた能力を更に伸ばし、才徳兼備のリーダーとなる人材の育成 |
|-----|-------------------------------|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 9 (6) | <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣★ ・国際数学・化学・生物・物理オリンピックへ出場する児童生徒の育成★ ・科学の甲子園静岡県大会の開催（再掲）★ ・国等に対する「飛び入学」制度導入の働き掛け ・各種コンクール等への支援（囲碁将棋、そろばん、書道、作文、合奏・合唱、木工工作、英語弁論大会、未来の絵、科学の甲子園 Jr.、静岡科学館「るくる」との連携事業等）★ ・「わたしの主張」静岡県大会の実施★ ・地元の行政や企業等と連携した主権者教育及び地域活性化等の取組の推進 ・トップアスリートの強化・活用（再掲）★ ・子供向けのワークショップである「ふじのくに子ども芸術大学」や中学校・高等学校での芸術鑑賞の支援等、子供が文化と出会う機会の充実（再掲） |
| ● | 2 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・「未来を切り拓く Dream 授業」の実施★ ・高校生海外インターンシップの推進（再掲）★ → P33 |

(進捗評価の根拠・内容)

○ 「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣★

「日本の次世代リーダー養成塾」は、福岡県及び佐賀県内で14日間の宿泊研修が実施される計画で、県内の高校生を派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全てのカリキュラムがオンライン形式に変更され、参加者は自宅等で研修を受けることとなった。本県からは11人が参加した（2019年度：9人派遣、2020年度：11人参加）。

引き続き、高い志を持った高校生の派遣を通じ、有徳の人づくりを推進していく。

【総合教育課】

○ 「わたしの主張」静岡県大会の実施★

新型コロナウイルス感染症の影響により、会場を変更し、規模を縮小して開催した。

県大会では、12人の中学生がそれぞれの主張を発表、社会の一員としての自覚を高める契機とした。（応募作文：135校、10,092点）【社会教育課】

● 「未来を切り拓く Dream 授業」の実施★

8月に4日間の宿泊研修を実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休業により、県内中学校の夏休み期間の短縮が見込まれたこと等から中止した。2021年度の取組につなげるため、過去の受講者のフォローアップ調査を行うとともに、その調査結果を含めた過去2回の実績を取りまとめた資料を作成した。この資料を県内全中学校に配布して事業の周知を行うとともに、生徒の参加意欲の向上につなげた。（2018年度：29人参加、2019年度：30人参加）

今後は、フォローアップ調査を踏まえて内容の改善等を図り、より充実した学びの場の提供につなげていく。【総合教育課】

3 高等教育機関の機能強化

<目標>

公立大学法人への支援の充実のほか、大学間及び大学・地域連携の促進等により、高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元を図るとともに、高等学校と大学との連携強化や新たな大学入試への対応への取組を図る。

(1) 公立大学法人への支援の充実

<目標指標の進捗状況>

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|-------------------------------|-------------------|--|-------------------|-----|-----------|
| 県内就職率の割合 (静岡県立大学・静岡文化芸術大学) | (2016年度) 58.4% | (2018年度) 56.6% | (2019年度) 54.5% | 60% | 基準値 以下 |
| | 指標の 評価 | 静岡県立大学、静岡文化芸術大学では、求人開拓員や教員が県内企業を訪問して情報収集を行い、企業の採用情報や魅力を学生に伝えるなど、県内就職に向けた取組を実施しているが、結果として県内就職率の上昇には結びつかず基準値を下回った。 | | | |
| | 今後の 方針 | 県内企業や経済団体等と連携したキャリア・就職支援、インターンシップなどを実施し、引き続き、県内企業の魅力を伝える取組を支援していく。 | | | |

| | |
|-----|---|
| 施策ア | 公立大学法人の適正な業務運営の促進、教育・研究機能の充実と地域へ貢献する人材の育成 |
|-----|---|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|---|---|
| ○ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 公立大学法人の中期目標の策定及び業務実績の評価 公立大学法人における中期目標達成のための取組への支援 静岡県立大学・静岡文化芸術大学における観光コース等の設置等、教育・研究機能の充実のための取組への支援 |

(進捗評価の根拠・内容)

○「公立大学法人の中期目標の策定及び業務実績の評価」

公立大学法人評価委員会を開催した。(7月・8月)【大学課】

○「公立大学法人における中期目標達成のための取組への支援」

運営費交付金の算定に、公立大学法人の中期目標の達成に向けた取組の成果を反映した。

【大学課】

(2) 教育・研究成果の地域還元

<目標指標の進捗状況>

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|--------------------------|------------------|--|------------------|------|----------------|
| 県内高等教育機関の公開講座・シンポジウム開催回数 | (2016年度) 442回 | (2018年度) 445回 | (2019年度) 437回 | 500回 | 基準値 以下 ★ |
| | 指標の 評価 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止・延期した公開講座・シンポジウムが31回あり、437回に留まったことから基準値を下回った。 | | | |
| | 今後の 方針 | オンライン・対面のいずれかを自由に選択できるよう開催方式の改善を図り、新型コロナウイルス感染症の収束状況に柔軟に対応可能な講座の実施を目指していく。 | | | |

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 施策ア | 県内大学の教育・研究機能の向上、地域社会の発展への貢献や学術研究の促進 |
|-----|-------------------------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ○ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムの運営の支援 ・学生による地域活動等の取組の支援 ・地域資源をテーマとした単位互換共同授業等への取組の支援 ・大学連携による地域課題の解決等を目的とした共同研究の支援 ・共同公開講座やシンポジウムの開催支援 ・国際的な学術フォーラムの開催 |
| ● | 1 (1) | ・高等教育機関の教育・研究成果の地域への還元★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「地域資源をテーマとした単位互換共同授業等への取組の支援」

お茶や観光学、演劇論等の本県の地域資源等に関するテーマで開催する短期集中単位互換授業に対する支援を実施した。【大学課】

○「大学連携による地域課題の解決等を目的とした共同研究の支援」

空き家活用事例から見た中心市街地活性化に向けた研究など、本県の課題解決に関する共同研究8件に対して研究費を助成した。【大学課】

●「高等教育機関の教育・研究成果の地域への還元」★

高校生による早稲田大学先端生命医科学センター（東京都新宿区）の模擬講義受講及び施設見学を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

2021年度以降については、新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえ、実施を検討する。【新産業集積課】

(3) 高大接続改革への対応

<目標指標の進捗状況>

| 目標指標 | 基準値 | 実績値 | | 目標値 | 進捗 |
|------------------------|-------------------|--|-------------------|-----------|----|
| 「大学等見学・体験」を実施した高等学校の割合 | (2017年度) 77.3% | (2018年度) 70.9% | (2019年度) 81.9% | 公立 85% | B |
| | 指標の評価 | 実施率は2018年度より向上したが、学校行事等に位置付けられ、学年単位で実施している学校と個人の判断に委ねられている学校と、取組に温度差がある。 | | | |
| | 今後の方針 | 引き続きキャリア教育に位置付けて推進を図る。 | | | |

| | |
|-----|--------------------------|
| 施策ア | 研究体験等による技術者や科学者の養成に向けた支援 |
|-----|--------------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|---|
| ○ | 2 | ・高大連携事業の推進 ・理数教育や職業教育等の一層の充実を図るための事業の実施 |
| ● | 1 (1) | ・高校生アカデミックチャレンジ等の高大連携による研究体験等の推進（再掲）★ → P74 |

(進捗評価の根拠・内容)

○「高大連携事業の推進」

大学コンソーシアムの高大連携推進事業（大学等の教員による高校への主張講座や大学生によるワークショップ）を支援した。【大学課】

| | |
|-----|--------------------|
| 施策イ | 「大学入学共通テスト」への円滑な対応 |
|-----|--------------------|

<主な取組の進捗状況>

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ○ | 2 (1) | ・ネオアドバンススクール指定校事業による研究成果の普及・実践 ・大学入学共通テスト等、新しい大学入学試験への対応★ |

(進捗評価の根拠・内容)

○「ネオアドバンススクール指定校事業による研究成果の普及・実践」

「ネオアドバンススクール指定校事業」を引き継いだコアスクール事業により、生徒の学力と教員の指導力を向上させる取組を実践した。【高校教育課】

| | |
|-----|----------------------------------|
| 施策ウ | 県内大学、高等学校、企業等に対する「飛び入学」の導入に向けた取組 |
|-----|----------------------------------|

＜主な取組の進捗状況＞

| 区分 | 数 | 主な取組 |
|----|----------|--|
| ○ | 3 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・国等に対する「飛び入学」制度導入の働き掛け（再掲） ・高等学校と大学との連携・接続の強化に向けた取組の促進（再掲）★ ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムの運営の支援（再掲） |

（進捗評価の根拠・内容）

○「高等学校と大学との連携・接続の強化に向けた取組の促進」★

大学コンソーシアムの高大連携推進事業（大学等の教員による高校への出張講座や大学生によるワークショップ）を支援した。

また、高等学校では、魅力ある学校づくり推進事業（コアスクール）において研究促進を図った。【大学課、高校教育課】